

1996年市勢要覧 前文

泉南の原風景を求めて

関西国際空港をはずみとして21世紀に大きく発展しようとしている「泉南」。その低流には、いつもかわらぬ鮮やかさで胸の内に浮かぶいくつかの風景があります。この風景には、豊かな自然にめぐまれて伝統の文化を育んできた人々のやさしさがあふれています。

いま、この自然・文化に新しい夢を混ぜ合わせ、未来の泉南をかたち作っていく、そんな泉南のあり方を「泉南の原風景」と呼んでみたいと思います。

「光と風のロマンス / 自然のある風景」

青く広い空、流れる雲、さんさんと降りそそぐ太陽、季節のにおいを運ぶ風、たくさんの命が息づく水辺や森林。こうした豊かな自然の中でそれぞれがハーモニーを奏で、泉南のひとつひとつの原風景を創り出しているのです。

・緑風

道端で聞こえてくる葉ずれの音に思わず顔がほころんだことはありませんか。人の心を優しくしてくれるそんな緑の風が泉南には吹いているのです。

・水系

耳に心地よいせせらぎの音、胸に響く波しぶき、そして透き通った水面。そんなシーンに出会うと、優しい気持ちになってきませんか。水のある風景は、人の心をあたたかくしてくれます。

・山系

青い空、白い雲。陽が輝き、風が梢を渡っていく。山々がきらめき、森が生命を高らかに謳い、子供たちの笑い声がこだまする。大昔から何も変わることのない泉南の原風景。

「文化創造の故郷 / 文化のある風景」

多くの古墳群が点在し、石器や銅鐸などが出土していることから泉南の歴史は縄文、弥生の時代にまで遡ることができます。やがては、人は集い、思想をもち、現在に至るまで延々と歴史を紡いできました。泉南市には、そこそこに先人からのメッセージが残されています。そして「文化の街・泉南」が誕生したのです。

・格調

万葉の香り漂う奈良のころ、泉南の地を訪れた一人の僧がいました。行基菩薩と呼ばれ、人々から慕われたその僧をこの地へ引き寄せた泉南の魅力とは何だったのでしょうか。

・伝承

時代の移り変わりの激しい中で、千年前の泉南を確定することはとても困難です。けれども、先人が残した史跡や遺物からその頃に想いをはせることはできます。泉南にはそんな歴史のかけらがたくさん残されているのです。

「自然との共生 / 太陽のある風景」

時代は進化し、私たちの生活もどんどん便利になってきました。ものが氾濫し、本当に必要なものが見えにくくなってきています。けれども、いつも私たちの原点は植物を育て、生物を育てる太陽の光にあるのです。「太陽の似合う街・泉南」のワンシーンがあふれています。

・大地

降り注ぐ太陽の光の中。汗を流し、目を輝かせながら大地と語り合っている人々がいます。泉南には多くの農地が美しい風景を創り出しています。そしてそこには新しい農業の姿を模索する人々の熱い想いがあふれているのです。

・大海

風が運んでくる潮の香り。海面に照り返す陽光。大海原から昇る太陽が泉南をやさしく包み込む。そして大漁旗の下には、潮風に鍛えられた人々の明るい笑顔があります。

「伝統へのあこがれ / 産業のある風景」

時代とともに人々の生活は変わっていきます。けれども、何かを創り出そうという営みはどの時代でも変わりません。和泉木綿で一世を風靡した泉南の産業も、時代とともに姿を変えながら、新しい時代にふさわしいものへと変化しています。泉南のもうひとつの顔「産業のまち」

・産業

泉南にしかないもの。泉南でなければ創れないもの。それは、脈々と息づく時代の移り変わりの中でも、決して色褪せることなく輝き続けています。新しい産業の形がここに 있습니다。